

第7期豊川市障害福祉支援計画等  
策定のための団体ヒアリング調査  
結果報告書

令和5年9月

豊川市



# 目 次

I 調査の概要 .....	1
1. 調査目的 .....	2
2. 調査方法 .....	2
3. 調査基準日 .....	2
4. 調査期間 .....	2
5. 調査対象 .....	2
6. 報告書の見方 .....	2
II 団体ヒアリング調査結果 .....	3
1. 障害関係団体、ボランティア団体の概要 .....	4
2. 団体の活動について .....	5
3. 自由意見 .....	17

# I 調査の概要

## 1. 調査目的

このヒアリング調査は、「第7期豊川市障害福祉支援計画・第3期豊川市障害児福祉支援計画」の策定にあたり、各種施策の基礎資料として活用することを目的として実施しました。

## 2. 調査方法

郵送配布・回収及び、インターネットによるWeb回収

## 3. 調査基準日

令和5年6月1日現在

## 4. 調査期間

令和5年7月4日（火）～令和5年7月28日（金）

## 5. 調査対象

区分	障害関係団体	ボランティア団体
対象者	主に市内で活動している 障害関係団体	主に市内で活動している ボランティア団体
配布数	6団体	25団体
有効回収件数	6件	15件
有効回収率	100.0%	60.0%

## 6. 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- (2) 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答結果の件数の合計値が全体の回答件数を超えることがあります。
- (3) 紙面の都合上、グラフにおいて、選択肢を省略して掲載している場合があります。
- (4) 表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。また、自由記述は個人や施設等が特定される内容を除いて表記してあります。

## Ⅱ 団体ヒアリング調査結果

# 1. 障害関係団体、ボランティア団体の概要

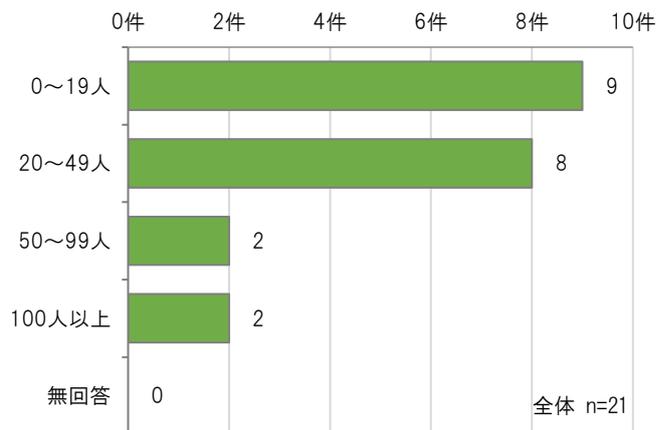
## ○団体構成員の主な関係障害

団体構成員の主な関係障害は、「身体」が15件、「精神」が3件となっています。



## ○団体構成員数

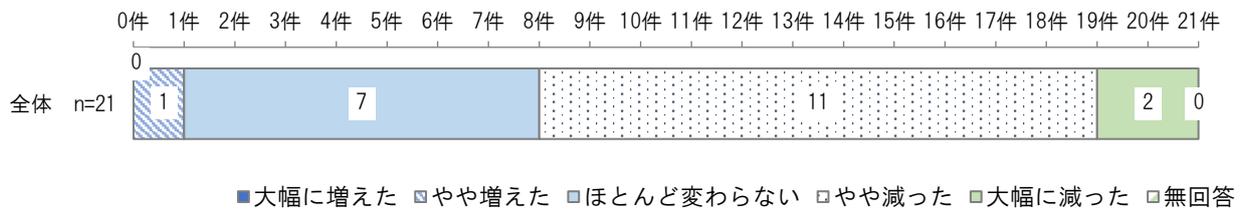
団体構成員数は、「0～19人」が9件と最も多く、次いで「20～49人」が8件、「50～99人」が2件、「100人以上」が2件となっています。



## 2. 団体の活動について

問1 おおよそ3年前に比べ、貴団体の構成員の人数に変化がありましたか。  
(○は1つだけ)

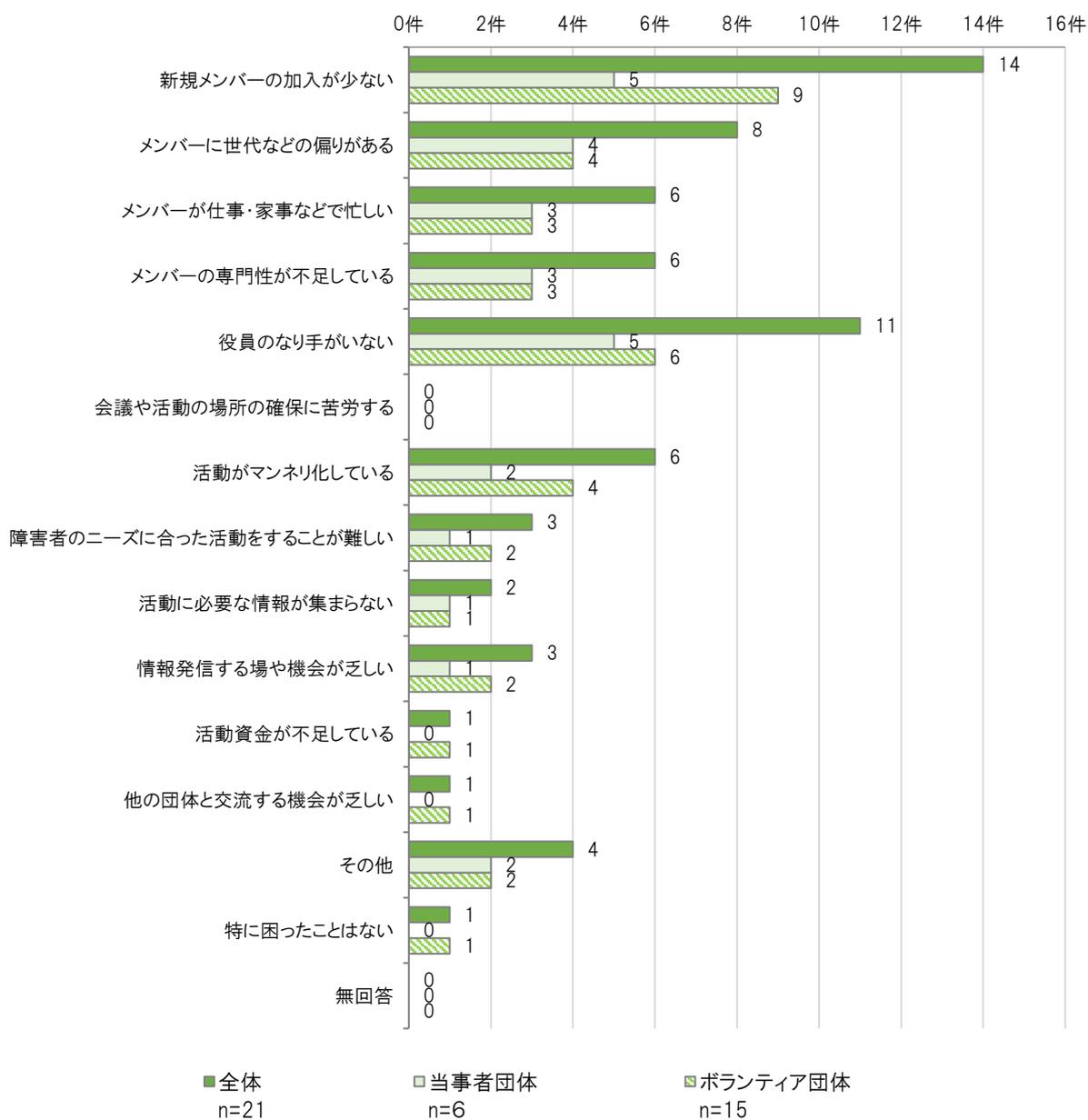
3年前と比べた団体構成員数の変化は、「やや減った」が11件と最も多く、次いで「ほとんど変わらない」が7件、「大幅に減った」が2件、「やや増えた」が1件となっています。



問2 貴団体が活動するにあたって課題や問題点を教えてください。(〇は1つだけ)

団体が活動するにあたっての課題や問題点は、「新規メンバーの加入が少ない」が14件と最も多く、次いで「役員のなり手がいない」が11件、「メンバーに世代などの偏りがある」が8件となっています。

団体種別に見ると、当事者団体、ボランティア団体ともに「新規メンバーの加入が少ない」が最も多くなっています。



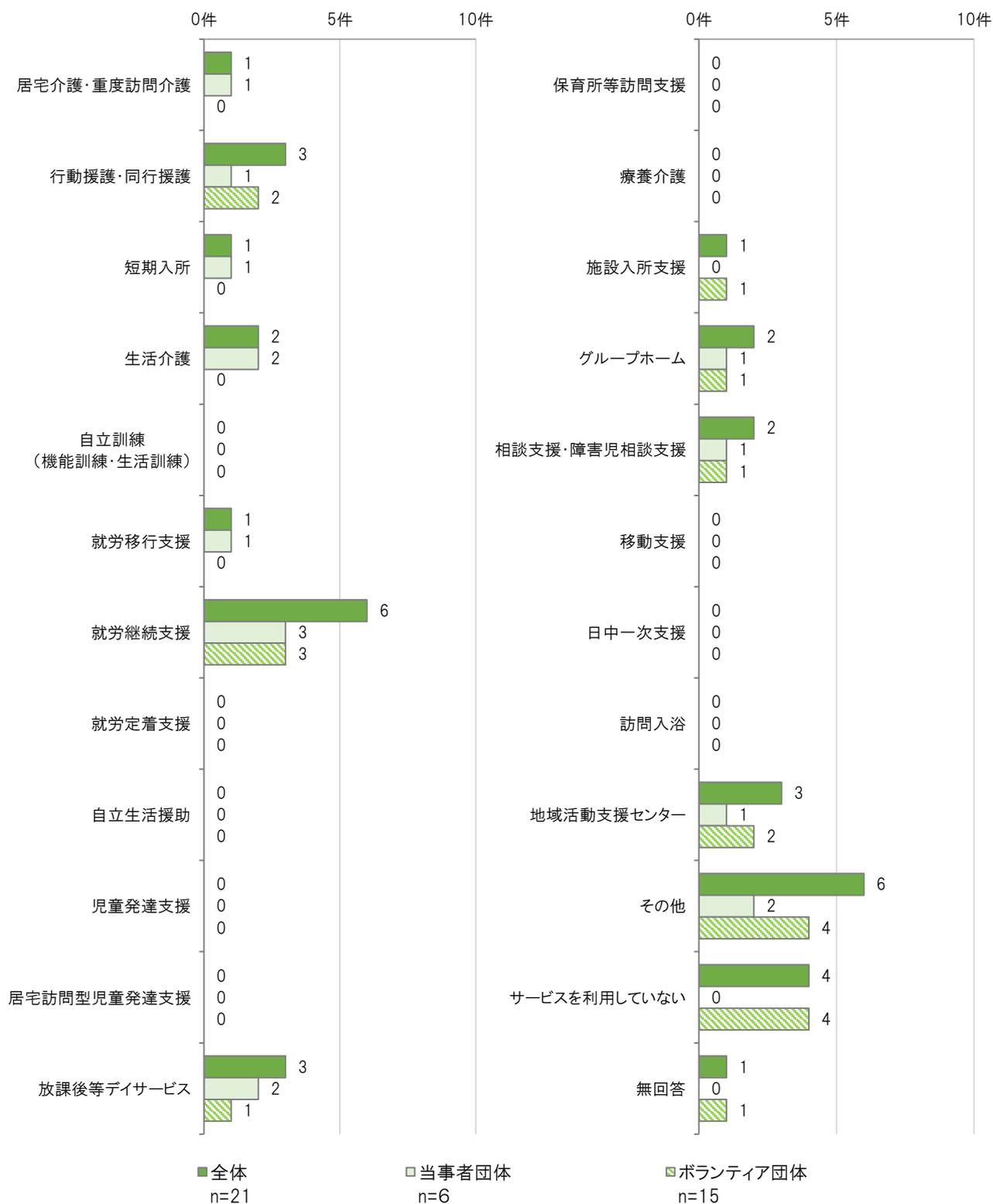
問3 今後の貴団体の方向性等を教えてください。

団体種別	内容
当事者団体	コロナの影響で団体の活動が明らかに低迷してしまった。会員の高齢化もあり、復活はかなり難しいが、少しでも団体の意義を感じられるような活動をしていきたい。
当事者団体	手話グループと複数の手話サークルとの合同行事を実施し、連携を図る。
当事者団体	親なき後子どもが地域で安心して暮らしていただけるための活動
当事者団体	精神障がいに対する専門的な知識と理解を深める為の各種講演会(専門家、講師による)開催。近隣県の作業所、施設等の見学。
当事者団体	学校、病院、行政の情報収集、情報交換をし、みんなが同じ情報を共有し豊かな生活を送れるように。
ボランティア団体	募金及び啓発場所の確保
ボランティア団体	いままで通り
ボランティア団体	8人のメンバーがそれぞれ特意、特技を持てるように練習に留意しています。
ボランティア団体	毎月開催のパソコン、スマホ教室および点字教室に加えてコロナ禍で中止されていた体験会(盲導犬、白杖の使い方、料理教室)を再開したい。
ボランティア団体	ろう者と日常生活の事でまだ本当に知りたい等を取り組んで行きたい。
ボランティア団体	筆談や要約筆記(手書き・パソコン入力)がメインでサポートしてきたが今は音声認識の技術が進んできたので、そちらも活用しながら聴覚障害者の支援をしたい。
ボランティア団体	1985年以降の音訳活動を継続していきたい
ボランティア団体	1. 色々な機会を見つけて情報発信に努め、視覚障害者や車いす支援の必要なニーズに合った活動に努める 2. 共助、公助への教宣活動を進める 3. 小学校、中学校生徒への実践教室を継続して進め、家庭も一緒に福祉への思いを広げたい
ボランティア団体	今年度、前団体より立ち上げたばかりなので、メンバーの福祉についての情報量を同じレベルにする。団体が安定し、人数が増えれば、今は豊川市内の小中学校の依頼ですが、将来的には企業や町内会への講座も出来ればと思います。
ボランティア団体	特になし
ボランティア団体	権利擁護支援の推進
ボランティア団体	聞こえにくさ、補聴器等、他者とのコミュニケーションなどの困りごとと悩みについての相談

問4 貴団体の会員が、現在、主に利用している障害福祉サービス等についてお答えください。(〇は3つまで)

団体会員が主に利用している障害福祉サービスは、「就労継続支援」が6件と最も多く、次いで「行動援護・同行援護」、「放課後等デイサービス」、「地域活動支援センター」がいずれも3件となっています。また、「サービスを利用していない」は4件となっています。

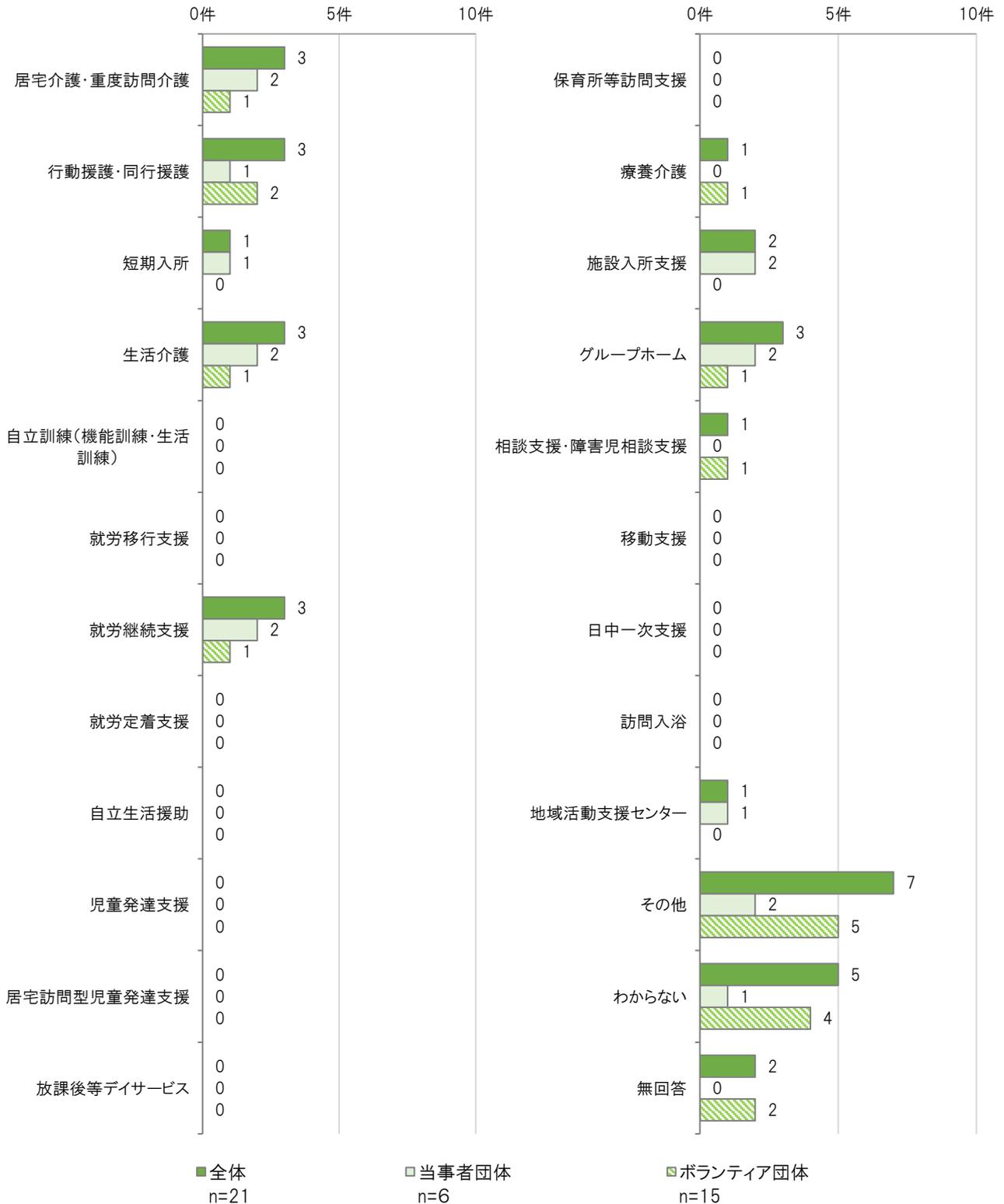
団体種別に見ると、当事者団体、ボランティア団体ともに「就労継続支援」が最も多くなっています。



問5 貴団体の会員が、今後、特に必要となると思う障害福祉サービス等についてお答えください。(〇は3つまで)

団体会員が今後特に必要になると思う障害福祉サービスは、「居宅介護・重度訪問介護」、「行動援護・同行援護」、「生活介護」、「就労継続支援」、「グループホーム」がいずれも3件となっています。また、「わからない」は5件となっています。

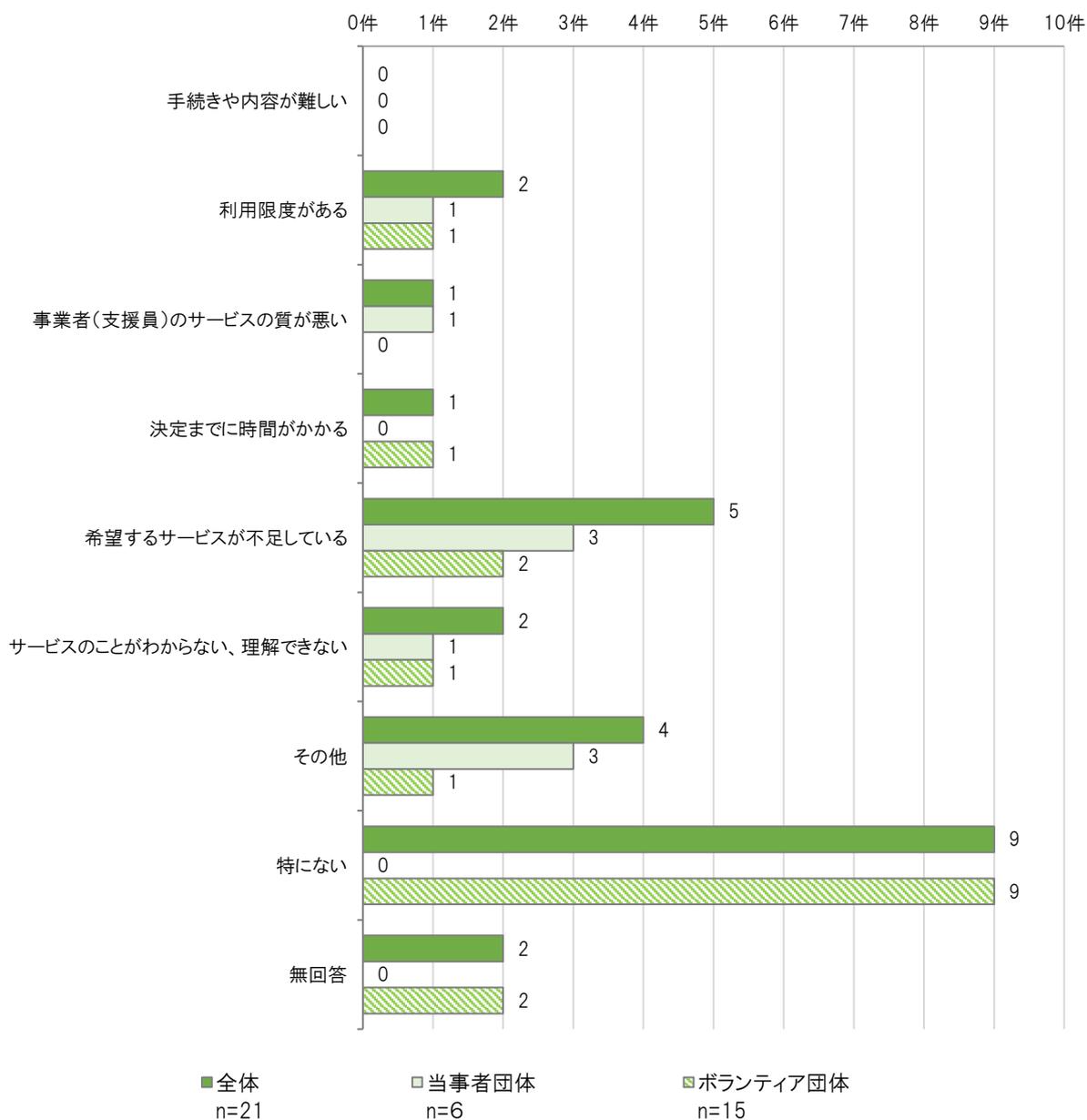
団体種別に見ると、ボランティア団体では「わからない」が最も多くなっています。



問6 貴団体の会員が、現在、障害福祉サービス等の利用にあたり、困っていることについてお答えください。(〇は2つまで)

障害福祉サービス等の利用にあたり、団体会員が困っていることは、「希望するサービスが不足している」が5件と最も多くなっています。また、「特にない」が9件となっています。

団体種別に見ると、当事者団体では「希望するサービスが不足している」が最も多くなっています。一方、ボランティア団体では「特にない」が9件となっています。



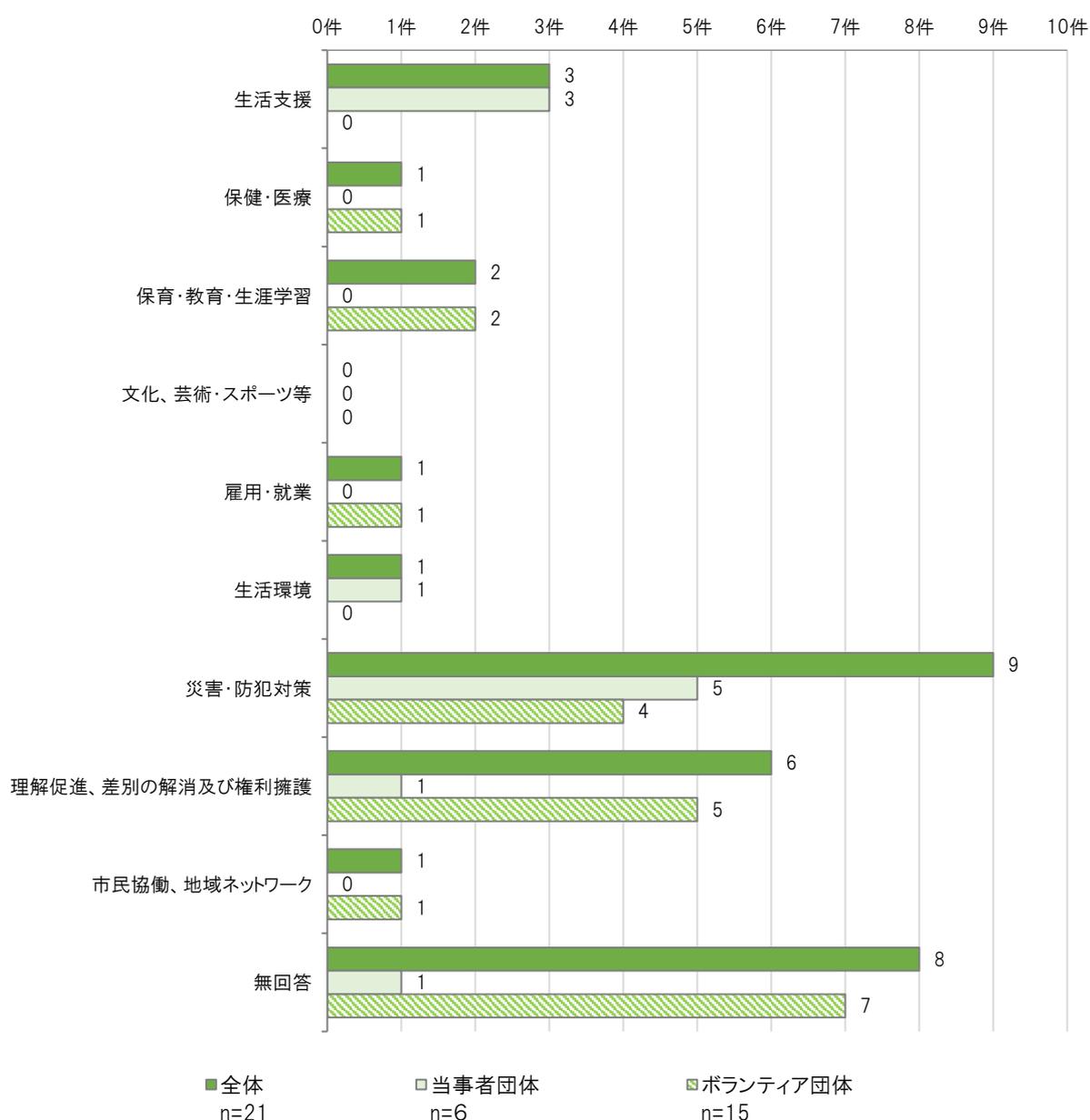
問7 問6でお答えいただいた「困っていること」について、改善のために必要だと考えられることをご記入ください。

選択肢	改善のために必要なこと
利用限度がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タクシー券の利用制限の撤廃、タクシー券の枚数を増やす、タクシー会社によって使用できない所がありこれをなくす。</li> <li>・ 同行援護を使い外出したいが思うようにヘルパーの確保が難しく利用時間に制約がある。</li> </ul>
事業者（支援員）のサービスの質が悪い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識がない職員への研修の充実・事業所内の風通しを良くして、利用者と向き合える職員を育てる環境づくり。</li> </ul>
希望するサービスが不足している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就労継続支援 A 型作業所が少ない。就労移行支援に向けて（採用企業拡大の為の）精神障がいに対する社会、企業、経営者の理解促進。</li> <li>・ サービス提供してくれる支援員の不足（支援員の待遇の向上及び人材の育成、確保）→サービスが思うように受けられない。医療的ケア児者の短期入所施設が少なくレスパイトでは受け入れてくれる所がない。</li> <li>・ はざまにいる子たちがサービスを受けられない→柔軟なサービス利用</li> <li>・ 市の手話通訳者の派遣事業は、整備されており、利用者が要望すれば概ね要約筆記が付く。2024 年 4 月から民間にも合理的配慮が義務となるに当たり、派遣される支援員の数で対応できるのか不安がある。音声認識アプリなどで、上手くサービスに活用できれば金銭面、人材不足の点が解消されていくのではないかと考えている。役所として他自治体の例などリサーチをお願いしたい。</li> <li>・ ヘルパー、相談員不足の解消。人材を確保できるような公的補助。</li> </ul>
サービスのことがわからない、理解できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害福祉施設が今後多く設置されることを望んでますが、支援機器設置や運用においては利用者の意見、具体的には障害当事者の意見を聴くことに重きを置き、設置においては利用者も立ち合わせての運用をお願いしたい。（利用者を巻き込んで、設置時の場所、機能、使い方や仕様説明を是非お願いしたい）単に「〇〇の場所に設置しましたので利用下さい」では使い方等理解が出来ないし、使いたく無くなるケースもあるかと。</li> <li>・ 必要な情報を発信してもらおう。個人の症状など引き継ぎをしっかりとってもらおう。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今、東三河聴覚障害者事業所笑おう舎は古い建物と狭い部屋なので、大きく広さのろう老人ホームが建てたい。</li> <li>・ 手帳がなくてもサービスを利用できるようにする。聴覚障害なので、6 級の手帳に該当しない。軽、中等度難聴者でも聞き辛くて困る場は多い。講演会、演劇、学習会、講座等。聞こえる人と同等に聞こえにくい人も参加を可能に。情報保障をつける。または音声認識の活用。</li> <li>・ 同行援護の事業所を増やす。</li> <li>・ ヘルパーの利用について、豊川の視覚障害者を優先する。市外の人が、豊川の事業所を利用して、使えないことが多い。</li> </ul>

問8 下記の9項目は、「第4次豊川市障害者福祉基本計画」における分野別方針を《選択肢》として設定しています。これらの方針の中で、特に重要と思うまたは一層注力すべきと考えるものを3つまで選び、現状や課題、今後必要であると思われるサービスなどについてご意見等をご記入ください。(貴団体と直接関係しない等、ご記入が難しい項目はご記入いただかなくても構いません。すべてのご意見の集約を行いますので、できる限り簡潔にご回答ください。)

特に重要と思うまたは一層注力すべきと考える「第4次豊川市障害者福祉基本計画」における分野別方針は、「災害・防犯対策」が9件で最も多く、次いで「理解促進、差別の解消及び権利擁護」が6件、「生活支援」が3件となっています。

団体種別に見ると、当事者団体では「災害・防犯対策」が5件と最も多く、ボランティア団体では「理解促進、差別の解消及び権利擁護」が5件と最も多くなっています。

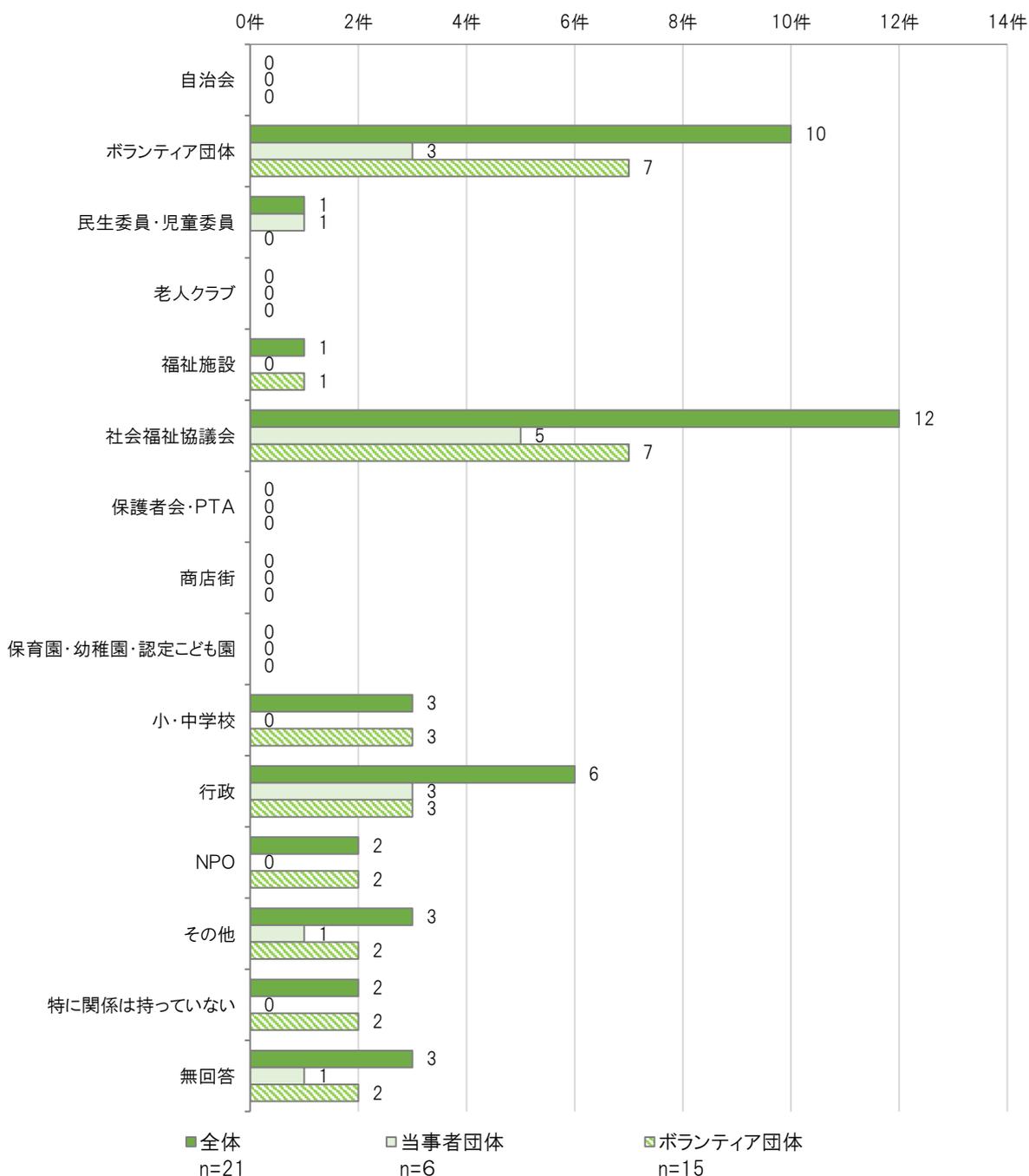


選択肢	ご意見等
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアが少ない為か、必要な時にすぐ対応できず、困る。</li> <li>・ グループホームは増えてきているが、世話人不足、スキルが心配。本人、家族が安心して利用できる場所増設。切れ目のない支援の充実。</li> <li>・ ヘルパーの利用拡大→支援内容の拡大・重度訪問介護の充実</li> </ul>
保育・教育・生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害児が、できるだけ（本人、家族が望めば）地域の園や学校で学ぶことができるよう、引き続き努力して欲しい。生涯学習の環境が、整ってきている昨今ではあるが、障害者が積極的に参加できるように、ハード、ソフトともに、さらに整えていって欲しい（生涯学習の案内に、障害者も参加でき易い文言があるとよい。）</li> <li>・ 小、中学校での福祉実践教室を今後も続けて、生活で福祉が当たり前になる社会になってほしい。豊川市内すべての小、中学校での福祉の授業を取り入れてほしい。</li> </ul>
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者の高齢化と高齢者の身体機能の衰えにより生じる生活の不安感の解消</li> </ul>
災害・防犯対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害・防犯対策。地震だけでなく、洪水など災害時、避難所で聴覚障害者に対する配慮してほしい。</li> <li>・ ろう者に対して、ろう者に通じる方法での情報保障が必要</li> <li>・ 最近水害や地震等が多く発生しており、災害発生時には多くの方が非難されると思います。そのような場所弱者と言われる方々への支援が必要になりますが、対応策を事前に策定する必要があるかと思われます。</li> <li>・ 勉強会の開催</li> <li>・ 電源確保</li> <li>・ 福祉避難所の早期開設、開設の条件と利用の条件の明確化</li> <li>・ 災害時の医療機器・使用できる物品の確保、配布（障害児・者用おむつ、足ふみ吸引機など）</li> <li>・ 温暖化の影響もあり、災害、気候変動が多発している現在、各々、持つ障害のために、不利益にならないよう、個別に災害対応できるよう、支援が必要と思う。障害に応じて「こんな時はこうする」マニュアルなどは、個々に配布されているのでしょうか？</li> <li>・ 災害弱者の多くが何らかの障がいがある方だと思われるので、支援方法の拡充</li> </ul>
理解促進、差別の解消及び権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意思決定支援をどのように展開していくか？対応方法等のしくみ</li> <li>・ 障害についての考え方。障害は個人にあるのではなく社会にあると考え方を改めること。→差別解消へ。バリアフリーの推進。</li> <li>・ ろう者とのコミュニケーション方法についての正しい理解の普及が必要</li> <li>・ 盲導犬への理解がまだ無い人がいる。</li> <li>・ 理解は進んできていると思うが、引き続き重点的に啓発して欲しい。講演会などには、当事者（メディアなどで活躍している人）を招いて、話しがきける機会を作られるのも良いと思う。特に学校で、そういう場があると良い。親子で話しが聴けるのがベストかと思う。</li> </ul>

問9 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

連携、協力している他団体・機関は、「社会福祉協議会」が12件で最も多く、次いで「ボランティア団体」が10件、「行政」が6件となっています。

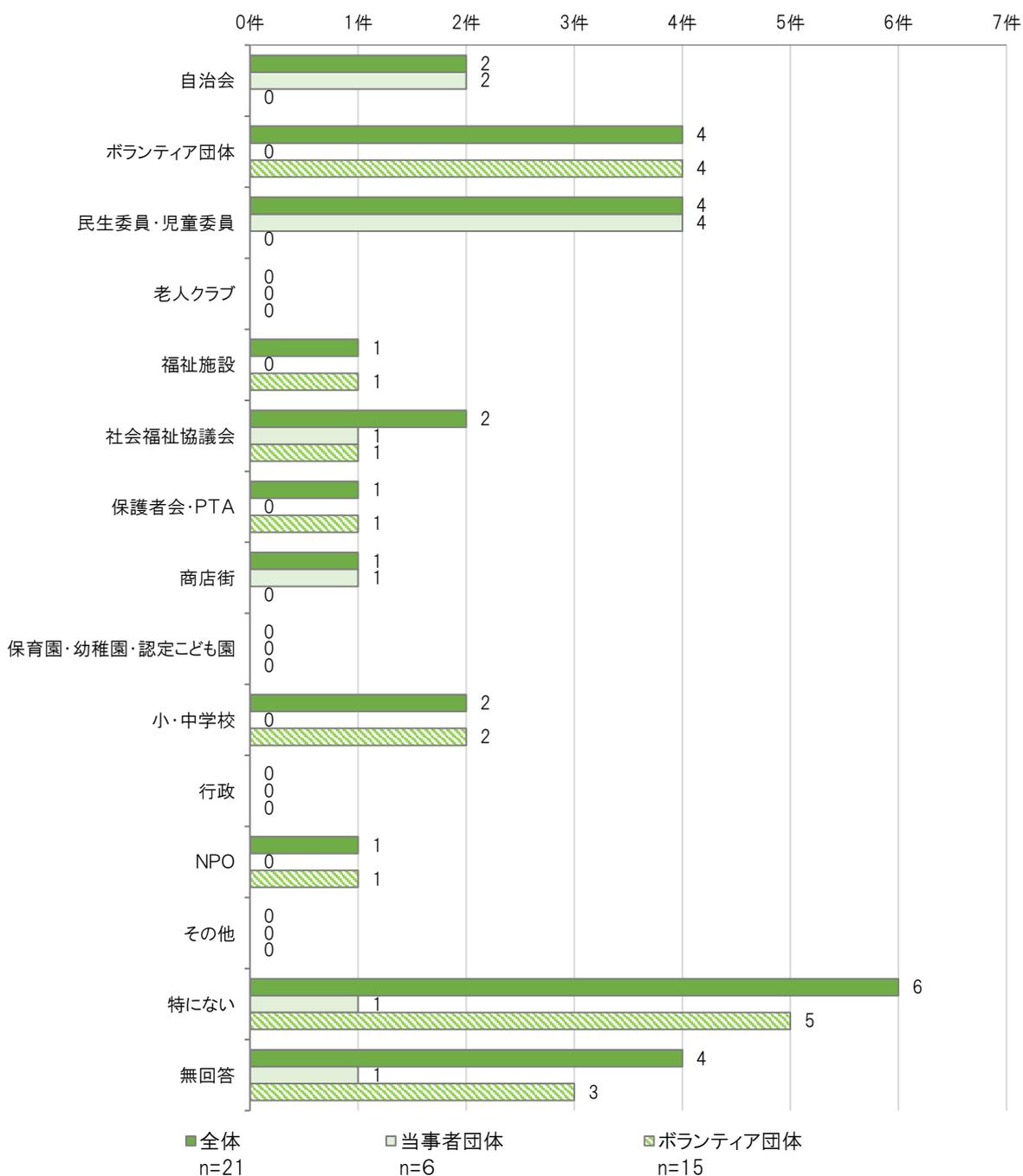
団体種別に見ると、当事者団体では「社会福祉協議会」が5件と最も多く、ボランティア団体では「社会福祉協議会」と「ボランティア団体」がいずれも7件と最も多くなっています。



問10 今後連携したい団体について、下記の項目から3つまで選び、その理由や連携したい内容についてご記入ください。

今後連携したい団体は、「ボランティア団体」と「民生委員・児童委員」がいずれも4件で最も多く、次いで「自治会」、「社会福祉協議会」、「小・中学校」がいずれも2件となっています。また、「特にない」が6件となっています。

団体種別に見ると、当事者団体では「民生委員・児童委員」が4件と最も多く、ボランティア団体では「ボランティア団体」が4件と最も多くなっています。



選択肢	選択理由、連携したい内容等
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に対して、少し手話で使うよう努めたい。</li> <li>・地域で安心して暮らせるように</li> </ul>
ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同障の人を支援している団体とは支援が重なることも多いので、交流し、情報交換も必要かと思う。</li> <li>・これまで手話関係者団体以外との関わりがないので、もし連携するとしたらボランティア団体に手話の普及、聞こえない人への理解を広めていきたい。</li> </ul>
民生委員・児童委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報絡みで、会員の掘り起こし不可能（手を差し伸ばせない）。民生委員さんでもなかなか踏み込めない状況では？（相談されても困るケースも）</li> <li>・各地域で障害者への理解をしてもらい、困った時に支援してもらえるように交流したい。</li> <li>・民生委員・児童委員に対して、少し手話で使うよう努めたい。</li> </ul>
福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で福祉施設との交流が途絶えましたが、新たな交流のあり方を機会を見つけて進めたい</li> </ul>
保護者会・PTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が福祉実践教室を授業で勉強し、保護者も福祉について知るきっかけになってほしい。</li> </ul>
商店街	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街に対して、少し手話で使うよう努めたい。</li> </ul>
小・小中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践教室を豊川市内すべての小・中学校での実践を行ってほしい。将来を担う若者に福祉に関心を持ってもらいたい。</li> </ul>
NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダルクと情報交換</li> </ul>

### 3. 自由意見

#### 問11 自由意見

団体種別	意見
当事者団体	<p>団体の意義は、どちらかというとも身体的にも社会的にも弱い立場にある者が互いに親睦を深め合っていくことである（組織として）。</p> <p>本アンケートにある多くの設問は会員の個人情報に関わるものが多いが、地域の障害者に声をかけようにも、対象者の把握は困難で又、会員についても団体として継続的な状況把握はしていない。</p> <p>団体としては親睦事業への参加呼びかけと防災への不安解消を要望する。コロナ禍を経て、会員の高齢化で、親睦事業への参加も少なくなり本団体は、消滅してしまうのではと危惧している。</p>
当事者団体	<p>豊川市役所障害福祉課の手話通訳者が1人いますが、留守場合があり、大変状況なので1人が雇用されたい。</p> <p>手話言語条例策定委員会を障害福祉課又は議員共に話し合っけてほしい。将来、高齢化が進んでいるのでコミュニティバスの路線を増やしたり、時刻表の本数を増やしてほしい。</p>
当事者団体	<p>本人のみでなく、家族（きょうだい）への支援の充実。障害者差別解消法で一般企業にも努力義務が課せられるようになることの広報。</p>
当事者団体	<p>相談支援員の訪問も個人の状態、状況に合わせて聞きとりだけではなく必要な情報を提供してほしい。レスパイトができる施設。よろしくお願いします。</p>
ボランティア団体	<p>豊川市の社会福祉協議会は、他市町の方から見て、とてもよくやってくれていると、よく言われます。</p> <p>学校の福祉実践教室も学校と連携して、充実してきていると感じます。市と社協との棲み分けもあると思いますが、今後も協力できるところはしっかりお願いしたい。</p> <p>障害者の相談事業は、どちらでも行っておられるのでしょうか？当事者は、上手く使い分けてみえるのでしょうか？</p> <p>防災訓練（市、地域）には当事者が参加できる体制をとるように方向づけて欲しい。</p>
ボランティア団体	<p>聴覚障がい者に対する正しい理解や手話を学ぶなどの取り組みを新しい世代に向けて広げていただけると嬉しい。</p>
ボランティア団体	<p>誰もが健康を願っても、障害者になることは止められない場合があると思います。</p> <p>どんな状態の方でも日々のくらしが送りやすい社会であればよいなと思います。</p> <p>各種サービスや施設、町並など苦勞されている方がより良く暮らせる様をお願いいたします。</p>

---

第7期豊川市障害福祉支援計画等  
策定のための団体ヒアリング調査  
結果報告書

発行年月 令和5年9月  
発行 豊川市  
編集 豊川市 福祉部 障害福祉課  
〒442-8601 愛知県豊川市諏訪1丁目1番地  
電話 0533-89-2159

---